勤務医ニュース

マニュアル

独立行政法人労働者健康福祉機構　中国労災病院放射線科
広島県医師会勤務医部会副部会長　　内　藤　　晃

近年、マニュアルという言葉が頻用されるようになり、今やマニュアル全盛期です。マニュアルいう言葉を、インターネットのフリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』で検索してみると、①手引書、取扱説明書②オート（auto、自動）の反対の意味で、手動のこと③その他、とあります。

手引書やマニュアルとは、行動や方法論を示してあり、状況に即してどのように対応すべきかを説明したもので、これは所定の社会や組織における各個人の行動を明文化して示し、全体に一貫性のある行動をとらせるもの、とあります。組織の構成員に対して自身の役割、行動を理解させている必要があり、これらを個別に言い聞かせて訓練し、最初はその都度参照し、できれば暗記し従うことが求められます。物事には、東日本大震災で見られたごとく、往々にして想定外のことが生じ、マニュアルには記載されていない現象も発生します。すぐれたマニュアルは、想定外の事項が少ないとされています。しかし、逆に事細かに規定が存在すると活動に制限が発生し、かえって邪魔になることもある、という考え方より、あまり細かく定めないものも存在するようです。

一般社会のみならず、最近、病院においても、世の中の流れかもしれませんが、マニュアルなるものが横行し、盛んにマニュアル作りに労力が注ぎこまれ、日々更新されています。確かに病院においても、マニュアルとして方法、手技などの一定の基準を示すことは、重要なことも多いと思います。このマニュアルを熟知、習得することで、ある程度のことには、対応可能となると思われます。日常業務で、あまり頻度の高くないことを行う場合にも、マニュアルはその有用性を発揮すると思われます。

しかし、逆に落とし穴が潜んでいるような気がしてなりません。マニュアル人間になって、マニュアルを読んで、覚えて、行動する、ということを繰り返しているうちに、物事に対して、なぜそのようにするか、などまったく考えずに行動するようになることが懸念されます。マニュアルに記載されていることは、平穏無事にこなすことができるが、一歩外れた、マニュアルに記載されていないことに遭遇した場合には、対処不能となることは、目に見えているように思います。さらに、いわゆる、想定外の事態が発生した場合にも、マニュアルに準じて行動するようになるでしょう。マニュアルに沿って行動しておけば、非難されることはないかもしれません。しかし後から振り返ってみると、マニュアルとは逆のことをした方が社会に不利益を及ぼさなかった、といった状況も生ずるかもしれません。臨床の分野において、外科手術、内視鏡検査、低侵襲性治療など、実際に手技を行う場合、仮に方法を書いたマニュアルが存在しても、読んだだけでこれらの手技が実際にできるようになることは、不可能ということを、理解しておかないといけないと思います。マニュアルを作成する立場に立った場合にも、みずから考え、種々の場面を想定し、実践する態度で臨まないと、作成は難しいように思います。みずから考え、頭を回転させ、理論を考えることで、記憶する量を減少させることができるのも事実と思います。医学の分野に限らず、絶えず、自分の頭で考える習慣を身に付け、あらゆる状況において、適格な判断を下せるように、日ごろより心がけたいと、考えています。